

2022年10月12日(水)第二水曜祈祷会

エゼキエル書22:1~31

「流血の都エルサレム」

【前回までのあらすじ】 *エルサレム陥落の預言(21:1~32)

- ①主はエゼキエルに「剣をさやから抜き」(もはや はない)と語るように告げられた。
- ②バビロンではすでに剣が研がれ、「わが子の杖」(ゼデキアの)もなぎ倒される。
- ③バビロンの王の剣はすでにエルサレムに向かい、()の時が来たと言われた。

【観察と黙想】

1. エルサレムの悪行(22章1~12節)

- ①エルサレムはどうして「流血の都」と呼ばれるようになってしまうのですか(2つ)。
→
- ②エルサレムはどうして周囲の異邦人の間で笑いぐさとなるのですか。
→
- ③6~12節にあるエルサレムの悪行は結局何が原因と言われていますか。
→

2. 神の審判が下る(22章13~16節) *「おまえをさばく日」…BC586年のエルサレム陥落

- ①「わたしは手を打ち鳴らす」とは何を表していますか。
→
- ②「主であるわたしが語り、事を行ふ」とは何を意味していますか。
→
- ③神はどうしてエルサレムに審判を下されるのですか。
→

3. 破れ口に立つ者(22章17~31節)

- ①「イスラエルの家はわたしにとって金かすとなった」とはどういうことですか。
→
- ②「預言者」「祭司」「町の高官」「民衆」の罪と不法は何を意味していますか。
→
- ③「わたしの前で石垣を築き、破れ口に立つ者」とはどういう人ですか。
→

【適用と分かち合い】

- ①神はどうしてエルサレムに裁きを下されるのでしょうか。
- ②今の自分にとって最も重要な問題は何でしょうか。
- ③この時代に生きる信仰者に対して、また教会に対して、主は何を望んでおられるのでしょうか。